

# 事例 No. 揖屋 1

## 経営体状況

- ◆ 地区名／揖屋
- ◆ 経営体区分／個人（家族経営）
- ◆ 経営主年齢／40歳代
- ◆ 営農類型／水稻＋露地野菜
- ◆ 作物／キャベツ、津田カブ、ブロッコリー、水稻
- ◆ 区分／認定農業者

### ・作目別作付け面積 (a)

キャベツ……………	630	ブロッコリー……………	90
津田カブ……………	150	水稻……………	150

### ・所有施設・機械一覧 施設・機械名・規格 数量

トラクタ 76,54,36,28,23ps ……………	5台
コンバイン……………	1台
トラック……………	4台
高床式運搬車……………	4台
農機具庫……………	3棟
田植機……………	1台
作業庫……………	1棟
キャベツ移植機……………	3台

## 経営の概要

平成17年に父から経営移譲を受け、中海干拓農地を中心に機械化体系の確立による生産効率の向上を図りつつ徐々に規模拡大を行っている。

現在では、干拓農地内で8.7haの経営規模、主たる労働力は、本人と両親であり、収穫期等の農繁期には期間雇用を雇っている。

## 経営の成果

干拓地での営農は、収穫期の長い秋冬キャベツを中心とし、1年を通して作業可能な営農体系を考え取り組んでいる。

キャベツは、干拓営農に適し



出荷調製中のキャベツ

た作物と考えており、全量JAへ出荷し、「くにびきキャベツ」として関西方面、市内スーパーで販売されている。

キャベツを中心とした営農体系により売り上げは年々上昇傾向である。

## 今後の取り組み

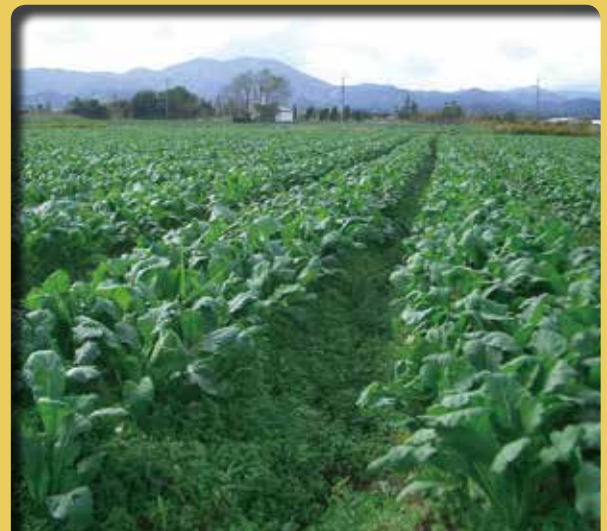
経営主は、生産の効率化を図るため、今後も研究を重ね、更なる規模拡大を目指している。

また、H29年度にはレーザーレベラーを導入することとしており、近隣の高齢キャベツ農家のほ場の更新作業や新規就農者等の規模拡大にも協力し、更なる「くにびきキャベツ」の生産拡大に向け基盤強化に努める。

目標は「くにびきキャベツ」をもっと有名にすること。



秋冬キャベツ作付状況



津田カブの作付状況